

1. 評価結果概要表

作成日 2008年4月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0874300973
法人名	有限会社ケアサービスコスモス倶楽部
事業所名	グループホーム にれの木桃花寮
所在地 (電話番号)	茨城県古河市仁連1987-15 (電話)0280-75-1117

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年4月21日	評価確定日	平成20年9月16日

【情報提供票より】(20年 4月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 2月 21日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	2人, 非常勤 7人, 常勤換算 8.7人

(2)建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築 /改築
建物構造	木造造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (150,000円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,333円		

(4)利用者の概要

利用者人数	7名	男性	5名	女性	2名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85歳	最低	81歳	最高	90歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	総和中央病院・斉藤歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所建物は、黄色や青などを使い明るく洋風な建築物になっており、その庭やテラスには季節の草花が多く飾られ、利用者はもとより来訪者も気軽に立ち寄ることのできる開放感がある。敷地には、外壁がなく広々としており、建物の内部からは外の様子や天気などが手にとるように理解できる。その開放感あふれる事業所は、地域連携に重きを置く事業所独自の理念があり、自治会への積極的な参加および行政との連携は密である。またご近所とのつきあいや毎日の散歩では地域の美化活動に協賛し、実際に活動を行うことで利用者は地域での役割の一部を担っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 同事業所内に、小規模多機能施設の開設や300~400人規模の事業所独自の催し物などを開催し、職員の異動や事業所開設の多忙な中、管理者を中心にケアの維持と改善への取り組みを行っている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価に対しては、職員の異動が多くまた多忙な中での対応となったため、管理者による自己評価にとどまり、職員の積極的な参加は向うことができなかつた。今後の自己評価に関しては、職員の意見を積極的に取り入れ、ケアの質の向上に活かせるよう努力されたい。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域、行政との連携に努力され、運営推進会議も家族や地域住人の多くの参加を持って開催され、認知症への理解と事業所の多機能性を生かした会議が開催されている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会を年4回開催している。その家族の参加はキーパーソンのみではなく、3世代が家族会に出席するなど、地域連携と同時に家族からの信頼も高い。苦情や意見は管理者が積極的に聞き入れ、改善策を職員間で話し合い改善できるよう努力されている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎日の日課に午前中の散歩がある。その散歩は利用者職員が近所を散歩するだけでなく、同時にゴミ拾いなどを行う美化活動を積極的に行っている。また、近所や警察などの協力を積極的に取り入れ、要介護者の安全確保に努力されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	思いやりと笑顔を忘れずに一緒に生活します。私らしさの生活を大切にします。家族を含め地域交流につとめます。という理念のもと積極的な地域への啓発などを行っている。先にも述べたように300人規模の催し物などを地域で開催し、地域の中の事業所となっていることが理解できる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議、合同会議を通して地域密着について何をしていくかを話し合い取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の参加地域の小学生を招いたり、子供会の活動などへの参加もしている。また地域の人々の集まる場所としての事業所の提供や、今後は学童保育など世代間交流なども検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価について職員間で話し合い、その内容からケアの質の向上への取り組みを行っている。	○	外部評価の意義や内容を管理者だけではなく職員も同時に理解し、職員全体での外部評価への取り組みになるよう今後努力されたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、行政など多くの参加の下で推進会議が開催されており、会議での意見からサービス向上につながるよう考慮している。また会議を通し勉強会なども計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者自らが、行政に積極的に足を運び行き来する機会をつくり、サービスの向上と連携を維持している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会を年四回開催し、その中で連絡事項として報告したり、電話や桃花通信などを利用し積極的に報告できるように取り組んでいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での意見の聴取や電話での意見の聞き取りなど、家族が事業所に意見を述べやすくなるよう工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動があったが、利用者への影響は少なかった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護基礎研修を受講できるよう配慮し、職員に対しては割引などを行い職員が気軽に研修に参加できるよう配慮している。		介護基礎研修を社内独自の研修施設で行っており、人材育成を積極的に行っている。今後は社内研修だけではなく、外部研修への参加へも工夫されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内同業者との連携は、現状ではほとんど行っていない。個人的な連携(職員間)は、施設を行き来するなどで行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者には、家族と一緒に何度か来所してもらい、最終的に本人の意志により入所を決めてもらっている。利用予定者が馴染める雰囲気を作り利用開始できるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理面など教えてもらったり、利用者の特技を生かしたレクやイベントを積極的に行うようにしている。また利用者に相談したり人生の先輩としての意見を聞くなど、支え合う関係を維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見を積極的に取り入れるよう配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は立案、作成し家族へ渡し確認してもらうようにしている。家族へは、なるべく家族会などで直接会って説明するように配慮している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族や本人の意見を聴取しサービス担当者会議を開催し把握に努め見直しを行っている。	○	計画の見直しや毎日の記録を日々のサービスに反映させ、より個別的なケアの提供に努力されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模多機能施設の併設や、家族会などで利用できる部屋の確保など随所に多機能化を生かした工夫がみられ、個人の居室は家族が宿泊できるよう広々とした物になっている。また施設の広い敷地などを積極的に利用し、規模の大きな催し物などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	中央病院をかかりつけ医とし、連携している。受診は家族または職員が付き添い、月に一度は受診できるよう配慮している。緊急時は、管理者が対応するなど安全面に配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期、重度化に関しては、基本的には医療施設のある施設への受け入れ援助を行うようにしている。今後は、利用者の状況も考慮し、事業所での受け入れ体制を整える方向である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	書類や個人情報に関しては、事務所へ保管し外部から名前などが見えないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望の時間にあわせられるよう配慮しているが、午前中の10時までは、事業所の流れが優先的になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食や調理の準備段階など、利用者の状態に応じて手伝ってもらったり、できる範囲で職員の食事への参加を促している。職員も一緒に食事することで明るい雰囲気の中で食事が取れるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	16時から入浴の時間としており、利用者が3日以上入浴していないことがないよう配慮し、入浴を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	特に利用者の役割を設けていないが、図書館の本を借りてきて朗読してもらったり、誕生日には、自分たちで食べたいものを作るようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日外出し、散歩中は地域の美化活動など行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所のすぐ前を幹線道路が走り交通量が多いことから、家族に説明し施錠の了解を頂き施錠している。居室については施錠はされていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を消防署立ち会いの下、年二回行っている。また水道などは井戸水と水道水とを変換できるようにしており、災害時の水の確保ができるよう配慮している。	○	大規模災害に備え、備蓄品を常備されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量などが個人別に細かく記載されており、把握に努めている。	○	食事量と同様に水分摂取の状況についても管理把握に工夫されたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所リビングに、大きな暖炉があり、暖かい場所を利用者の共有空間としている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個人の馴染みの物を居室に設置し、居心地のよい空間となるよう工夫されている。		